



今年度 第一回目の世界の民族衣装展は「衣服のかたち」と題し、貫頭型・巻垂型・前開型・体房型などの衣装をご紹介します。

衣服の形は環境や時代によって変化して来ました。自然環境や生活文化によって素材や形が違うこともありますし、交易や侵略などにより他国の文化が入ってくることによって変化したものもあります。日本でも着物を日常的に着ている人は少なくなり、洋服を着て生活をしています。このような傾向は日本だけではなく他国も同様な傾向にあるのではないのでしょうか。それでも民族衣装と呼ばれる衣服を着て生活したり、現代風にアレンジしたり、また、特別な日の晴着として残っているものも多いと思います。今回の展示では、インドのサリーやブータンの女性用キラなど布を身体に巻きつけて着る巻垂型やメキシコやグアテマラのウィピル（女性用ブラウス）などの頭を通す穴を開けて着る貫頭型、着物のように前を合わせて着る前開型、洋服やドレスなどの立体的につくる体房型などの衣装を展示いたします。

染織資料展では、代々受け継がれてきた衣装の技法や色彩等、美しく素晴らしい染織資料をご紹介します。是非この機会にご覧ください。

令和元年6月11日（火）～ 7月14日（日）

会場 桐生地域地場産業振興センター
4階「資料展示ホール」

開催時間 10:00～16:00

休館日 月曜日 入場料 無料

